

● 核医学部門における タスクシェアの取り組み

熊本大学病院 医療技術部 診療放射線技術部門 | 池田龍二

熊本大学病院の核医学部門におけるタスクシェアの取り組みを紹介する。タスクシェアを推進するためにはキーワードとして、マイルストーン、リスキリング、ワークエンゲイジメントが重要である。マイルストーンにおいては、抜針・止血、RI投与、静脈確保と段階的に中間目標を設定した推進を行った。タスクシェアは、診療放射線技師にとってリスキリングの1つであると認識し、それに伴った、環境と体制の構築が重要である。また、スタッフ個々のワークエンゲイジメントのサポートが必要不可欠である。

タスクシェアを推進する中で、抜針・止血、RI投与、静脈確保以外の業務やシステムの変更も発生する。特に核医学部門においては、検査や薬剤の種類も多く、マニュアルの整備を含めて、教育体制の構築が重要である。最後に、これらを円滑に実施するためには、多職種連携が必要不可欠である。

This paper introduces a task-sharing initiative in the Nuclear Medicine Department of Kumamoto University Hospital. In order to promote task sharing, the three keywords of milestone, reskilling, and work engagement are important. In addition, multi-professional collaboration is indispensable for smooth task sharing.

● はじめに

熊本大学病院(以下、本院)の核医学部門におけるタスクシェアの取り組みを紹介する。本院において、タスクシェアを積極的に推進する方向性が示され、放射線部においても、タスクシェアを推進するための準備を2021年の中頃より開始した。熊本県内において1回目の告示研修(実技研修)が2022年2月23日に実施され、本院からも多くの技師が受講した。その後も積極的に受講し、現在の本院スタッフの統一講習会受講率は78%(35名/45名中)、告示研修(実技研修)修了者が91%(41名/45名中)である(2023年2月24日現在)。

核医学部門におけるタスクシェアの内容は、抜針・止血、放射性医薬品の投与、静脈確保が挙げられる。本院では現在、これらの項目全てにおいてタスクシェアを実施している。2022年2月の時点では、全て0件であったが、同年8月の実績は、抜針・止血が全体の62%、RI投与が65%、静脈確保が56件と、半年で大きくシェアを伸ばす事ができた。

本項では、マイルストーン、リスキリング、ワークエンゲイジメントの3つのキーワードでタスクシェアを推進した経緯を紹介する。

● マイルストーン

タスクシェアを推進するためには、現

状を把握し、目標を設定する事が重要である。本院の核医学部門において、現状を分析し、タスクシェアを推進していくためのいくつかの目標中間点(マイルストーン)を設定した。

本院の核医学部門の装置構成とスタッフ配置を図1に示す。図1の中で、主にRI検査におけるタスクシェアの推進を検討した。RI検査別の比率と検査数を図2に示す。2021年の年間検査数は2,703件であり、その内、負荷検査を除くと、静態検査が1,673件、動態検査が233件であった。静態検査では、静脈確保時の注入針サイズは24Gで可能であり、動態検査は22G以上で通常は確保している。最初の目標は、骨シンチや脳血流シンチの静態検査の患者様の静脈確保から準備を開始した。